

看護学講座 基盤看護学

1. 領域構成教職員・在職期間

教授	長谷川 智子	平成10年6月ー（平成19年11月ー現職）
教授	上原 佳子	平成15年4月ー（令和3年4月ー現職）
准教授	飯田 礼子	平成8年4月ー（平成21年4月ー現職）
講師	北野 華奈恵	平成20年4月ー（平成30年4月ー現職）
講師	礪波 利圭	平成21年4月ー（令和3年4月ー現職）
助教	出村 佳美	平成25年4月ー
助教	藤田 結香里	令和3年10月ー

2. 研究概要

研究概要

基盤看護学分野は、基礎看護学と生命基礎科学の2領域で構成されている。

基礎看護学の研究としては、看護の対象である人間を総合的に捉えることを基盤として、(1)エンドオブライフにおける看護研究、(2)セルフマネジメント教育ニーズのアセスメント・看護診断・看護介入の研究、(3)専門職のマネジメント(看護管理)に関する研究、(4)タクティールマッサージの効果の検証、(5)COPD患者の家族支援に関する研究、(6)誤嚥性肺炎予防のための口腔ケアの研究、(7)2型糖尿病患者の通院中断予防に関する研究を行っている。

そのうち、継続的なタクティールマッサージによる効果の検証(基盤研究(C))、および高齢者の睡眠に対するタクティールケアの効果の検証(基盤研究(C))は、医学系部門行動科学領域と共同で研究を実施している。また、慢性疾患患者の意思決定行動を含むセルフマネジメントと効果的看護介入方法の構築(基盤研究(C))、COPD患者の疾病コントロールを支える家族に対する家族支援プログラムの構築(基盤研究(C)、他大学との共同研究)、高齢のCOPD患者の誤嚥性肺炎予防に向けた口腔セルフケア教育プログラムの検証(基盤研究(C))を継続して実施している。また本年度より、長期的なタクティールマッサージによるストレス緩和およびQOL向上効果の検証(基盤研究(C))、2型糖尿病患者の通院中断予防に向けた医療者との関係構築スキル向上プログラムの開発(若手研究)に取り組んでいる。

生命基礎科学では、トランスクリプトーム解析による年齢依存性発現生体分子の網羅的検索によって見出した新規生体分子M-LP/Mpv17Lの生理的機能の解析を行っている。本分子の発現は、成長とともに増加し、老年期で減少する。これまでに、①M-LPはミトコンドリアに局在し、細胞レベルでのM-LPの発現抑制はミトコンドリア膜電位の低下、mtDNA損傷の増加および細胞増殖能の低下を惹起すること ②M-LP-ノックアウト(KO) HepG2細胞では、mtDNA維持に関わるTFAMのリン酸化が増加すると同時にそのタンパクレベルが減少することなどを明らかにした。しかし、このような現象の基盤となる分子メカニズムは不明であったが、昨年、M-LPがcAMP分解活性を有する環状ヌクレオチドホスホジエステラーゼ(PDE)活性を有すること、また、その分子構造は従来のPDE family memberと異なることを世界に先駆けて解明した(Iida et al. Biochim Biophys Acta Mol Cell Res, 2020)。そこで、生体におけるM-LPの機能を明らかにするため、M-LP-ノックアウト(M-LP-KO)マウスを作製し表現型解析を実施した。

キーワード

看護一般、アセスメント能力、看護診断、看護倫理、エンドオブライフケア、意思決定、Advance Care Planning: ACP、慢性疾患患者、呼吸器疾患患者、2型糖尿病患者、セルフマネジメント教育、教育プログラム、誤嚥性肺炎予防、口腔ケア、タクティールマッサージ、タクティールケア、家族支援、分子生物学、法医学、加齢医学、遺伝子発現

業績年の進捗状況

<基礎看護学>

- ・2021年度も継続してAdvance Care Planning: ACPに関する研究を行い、学会発表、論文発表の成果をあげた。加えて、呼吸器疾患患者をはじめとする慢性疾患患者に係わる看護師のACP行動に関する研究も行い、学会等で成果発表を行った。
- ・健康な成人女性を対象としたタクティールマッサージの効果について検証を継続して実施している。その一部の成果発表を行った。
- ・高齢者を対象としたタクティールマッサージの睡眠への効果についての検証を進めている。
- ・COPD患者と共に生活を送る家族を対象に、インタビュー調査を進め家族のニーズの明確化を行っている。
- ・高齢COPD患者の誤嚥性肺炎予防に向けた口腔セルフケアを支援するための教育ツールの検討に取り組んでいる。
- ・2型糖尿病患者の通院中断予防に向けた医療者との関係構築スキルプログラムの構成要素の明確化に取り組んでいる。

<生命科学>

- ・作製したM-LP-KOマウスについて病理組織学的解析を実施したところ、膵ランゲルハンス島の過形成が認められ、糖負荷試験の結果、耐糖能が上昇していた。M-LP/Mpv17L欠失に伴うこれらの変化は、Wntシグナル伝達経路の主要因子であるβ-カテニンやGSK-3βのPKA依存性のリン酸化により惹起されることが明らかとなった(Iida et al. Biochim Biophys Acta Mol Basis Dis, 2021)。

特色等

基礎看護学では、看護学の基礎となる教育を担当している。学部教育では、大学教育入門セミナー、キャリア開発入門、キャリア開発方法、ふくい看護論Ⅱ、疾病論Ⅰ、看護学概論、日常生活援助論、療養生活援助論、看護コミュニケーション論、看護過程論、ヘルスアセスメント論、看護倫理、リスクマネジメント論、看護管理、リサーチマインド、看護学研究概論、看護研究方法論、卒業研究、日常生活ケア実習、看護展開実習、看護技術実習、キャリアアップ実習を担当している。大学院教育では、基礎看護学特論、基礎看護学演習、基礎看護学特別研究を担当する他、看護研究、看護理論、看護管理論、看護政策論、コンサルテーション論、ヘルスアセスメントなどの共通科目も担当している。また、専門看護師教育課程の科目も一部担当している。

研究では、科学研究費(基盤研究(C))や学内共同研究費を取得して、継続した研究を行っている。そして研究成果を、これまでInternational Council of Nursing: ICN, American Thoracic Society: ATS, European Respiratory Society: ERS, American Association of Respiratory Care: AACRC, Nursing&Healthcare Summit, The 27th annual Congress of Korean Association for Respiratory Care and 17th Ventilator Workshop (20th Anniversary International Congress), Thailand Nursing and midwifery Council World Academy of Nursing Science International Nursing Research Conference: TNMC&WANS等の国際学会で発表している。国内では日本看護研究学会、日本看護科学学会、日本看護診断学会、日本看護学会、日本看護医療学会、日本呼吸ケア・リハビリテーション学会、日本生理心理学会、日本感染症学会等で多数発表している。また、研究内容や研究成果を、大学の講義等で紹介するなど教育にも活かし、研究と教育・実践とのリンケージをはかっている。

生命基礎科学では、看護学科1年次生の「生命科学」、「看護学のための生物学入門」、2年次生の「臨床栄養学」、4年次生の「卒業研究」、および医学科1年次生の「生命現象の科学」の講義(生化学ユニット)と同実習を担当している。看護学科には高校で文系クラスに属していた学生も少なからず在籍することから、生物学知識レベルの個人差が大きく、専門基礎科目の学修に支障をきたすケースが見られた。そこで、高校生物未履修者に対応した初年次生物教育を充実させるため、「看護学のための生物学入門」を開講している。

研究では、科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究)の助成を受け、年齢依存性発現生体分子のスクリーニングの過程で見出した新規遺伝子Mpv17Lの発現調節機構や遺伝子産物(M-LPタンパク質)の生理的機能の解明に取り組んできた。これまでにMpv17Lの転写抑制因子Rh1tを同定し(Mol Cell Biol, 2010; Free Radical Biol. Med, 2012; Biores Open Access, 2013)、M-LPおよびRh1tが、mtDNAの損傷によって引き起こされるミトコンドリア機能不全に関わることを見出した(Free Radical Biol. Med, 2015)。M-LP-KO細胞を用いた実験の結果、本分子は、mtDNA維持に関わるタンパク質Mitochondrial transcription factor A (TFAM)のリン酸化に伴う分解を阻止することによって細胞を護る役割を担っていることが明らかとなった(Oxid Med Cell Longev, 2018)。本研究の進展は、成人病や神経変性疾患などの老年性疾患機序の解明や治療法の開発につながっていくものと考えられる。生命基礎科学での研究で対象としているM-LP、Rh1tなどの年齢依存性発現生体分子は、加齢・老化と密接な関連をもつことから、成人病や老年疾患発症機序の解明や予防医学に資することが期待できる。

本学の理念との関係

福井大学は、学術と文化の拠点として、高い倫理観のもと、人々が健やかに暮らせるための科学と技術に関する世界的水準での教育・研究を推進し、地域、国及び国際社会に貢献し得る人材の育成と、独創的かつ地域の特色に鑑みつつ教育科学研究、先端科学技術研究及び医学研究を行い、専門医療を実践することを理念・目標に掲げている。

基礎看護学では、これらに基づき、研究とEBNに基づいた教育に力を入れている。研究面でも、睡眠障害を有する子どもとその親が健やかに暮らすための方法として、タクティールマッサージを用いたケアの評価を行うとともに、慢性疾患を抱えた高齢者の健康維持のための教育プログラムを構築し、地域の住民や高齢者の健康増進に寄与している。また、慢性疾患患者の意思決定行動を含むセルフマネジメント状況をもとにした効果的看護介入方法の検討により、看護の質向上に寄与することも期待できる。

生命基礎科学での研究で対象としているM-LP、Rh1tなどの年齢依存性発現生体分子は、加齢・老化と密接な関連をもつことから、成人病や老年疾患発症機序の解明や予防医学に資することが期待できる。

3. 研究実績

区分		編数		インパクトファクター（うち原著のみ）	
		2015～2020年分	2021年分	2015～2020年分	2021年分
和文原著論文	ファーストオーサー	8	1	—	—
	コレスポンディングオーサー	1	1	4.105(4.105)	5.187(5.187)
英文論文	コレスポンディングオーサー	1	1	4.105(4.105)	5.187(5.187)
	その他	2	0	6.787(6.787)	0(0)
合計		3	1	10.892(10.892)	5.187(5.187)

(A) 著書・論文等

(1) 英文：著書等

a. 著書

b. 著書（分担執筆）

c. 編集・編集・監修

(2) 英文：論文等

a. 原著論文（審査有）

21110012

R.Iida, M.Ueki, T.Yasuda: Deficiency of M-LP/Mpv17L leads to development of β -cell hyperplasia and improved glucose tolerance via activation of the Wnt and TGF- β pathways, Biochim Biophys Acta Mol Basis Dis, 1868(3), 166318-166318, 202203, DOI: 10.1016/j.bbdis.2021.166318, #5.187

b. 原著論文（審査無）

c. 原著論文（総説）

d. その他研究等実績（報告書を含む）

e. 国際会議論文

21110013

T.Hasegawa, Y.Uehara, K.Kitano, R.Tonami, Y.Demura: Advance Care Planning and Nursing in Japan:What we can do?, ICN2021Abstract, A-1192-0023-01343, 20211102

21110014

T.Hasegawa, Y.Demura, Y.Uehara, K.Kitano, R.Tonami, K.Hisada, H.Kimura, T.Ishizuka: Assessments on swallowing functions, oral health conditions and oral health care behaviors among elderly COPD patients., NANDA International/Boston College 2021 Virtual Conference, 13-13, 20210616

(3) 和文：著書等

a. 著書

b. 著書（分担執筆）

21110015

日本呼吸器学会・日本呼吸ケア・リハビリテーション学会合同非がん性呼吸器疾患緩和ケア指針2021作成委員会（編集）：第5章エンドオブライフケアに関わる諸問題：非がん性呼吸器疾患緩和ケア指針2021, 120-140, 20210420

c. 編集・編集・監修

(4) 和文：論文等

a. 原著論文（審査有）

21110016

油野 規代, 加藤 真由美, 坂本 めぐみ, 藤田 結香里: 転倒したがん患者の特徴と損傷ならびに治療の状況 国内における症例文献レビューから, 日本転倒予防学会誌, 8(3), 33-44, 20220310, DOI: 10.11335/tentouyobou.8.3_33 (症例報告)

b. 原著論文（審査無）

c. 総説

d. その他研究等実績（報告書を含む）

21110017

長谷川 智子, 安倍 博, 坂井 豊彦, 田中 雅人, 羽根田 洋: 看護過程のプロセスとしての看護診断, 看護診断, 27(1), 42-47, 202203, DOI: 10.11477/mf.7004200063

21110018

長谷川 智子: 看護研究の基礎と呼吸器における研究ニーズ, 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌, 29(3), 1-5, 20210620, DOI: 10.15032/jsrccr.29.3_386

e. 国際会議論文

(B) 学会発表等

(1) 国際学会

a. 招待・特別講演等

21110019

T. Hasegawa, H. Abe, T. Sakai, M. Tanaka, H. Haneda: The Changes in the Japan Nursing Learning Management System as a response to COVID-19, The1st Nursing and Midwifery International Student Forum: NUMINAL Forum, 20210724

21110020

T. Hasegawa, K. Sada, M. Hasegawa: Innovation in Nursing Education for Respiratory Care and COVID-19 Countermeasures in Fukui Japan, UNAIR 12th International Nursing Conference, Boston, 20210407

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演（口演）

21110021

T. Hasegawa, Y. Demura, Y. Uehara, K. Kitano, R. Tonami, K. Hisada, H. Kimura, T. Ishizuka: Assessments on swallowing functions, oral health conditions and oral health care behaviors among elderly COPD patients., NANDA International/Boston College 2021 Virtual Conference, 20210617

d. 一般講演（ポスター）

21110022

T. Hasegawa, Y. Uehara, K. Kitano, R. Tonami, Y. Demura: Advance Care Planning and Nursing in Japan:What we can do?, ICN2021 Congress, 20211102

e. 一般講演

f. その他

業績一覧

(2) 国内学会（全国レベル）

a. 招待・特別講演等

21110023

長谷川 智子, 安倍 博, 坂井 豊彦, 田中 雅人, 羽根田 洋: 看護過程のプロセスとしての看護診断, 第27回日本看護診断学会学術大会, 20210717

21110024

長谷川 智子, 安倍 博, 坂井 豊彦, 田中 雅人, 羽根田 洋: 看護の思考過程を可視化するICTを使った教育と臨地実習のリンケージ, 第22回日本医療情報学会看護学術大会, 20210730

b. シンポジスト・パネリスト等

21110025

長谷川 智子: 慢性呼吸器疾患患者のACP, 第31回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 20211112

c. 一般講演（口演）

21110026

橋本 容子, 長谷川 智子, 牧野 富美枝, 梅田 尚子: A県内における中小規模病院の看護師のAdvance Care Planning ACP支援行動の実際と影響要因, 日本臨床倫理学会第9回年次大会, 202203

21110027

牧野 富美枝, 長谷川 智子, 橋本 容子, 梅田 尚子: 糖尿病患者に対するアドバンス・ケア・プランニングにおける看護師の行動意図とその影響要因の明確化, 日本臨床心理学会第9回年次大会, 202203

21110028

橋本 容子, 長谷川 智子, 磯見 智恵, 牧野 富美枝, 梅田 尚子: A県内における介護保険施設の看護師のAdvance Care Planning: ACP支援の実際と影響要因, 日本臨床心理学会第9回年次大会, 202203

d. 一般講演（ポスター）

21110029

北野 華奈恵, 長谷川 智子, 上原 佳子, 磯波 利圭, 出村 佳美: 子どもに対するタクティール®ケアのリラクゼーション効果の検証, 第41回日本看護科学学会学術集会, 202112

21110030

油野 規代, 加藤 真由美, 藤田 結香里: 療養士が認識するがん患者の転倒リスク, 第8回日本転倒予防学会学術集会, 20211024

21110031

油野 規代, 加藤 真由美, 坂本めぐみ, 藤田 結香里: 多職種が捉えるがん患者の転倒リスク, 第41回日本看護科学学会学術集会, 202112

e. 一般講演

f. その他

(3) 国内学会（地方レベル）

a. 招待・特別講演等

21110032

長谷川 智子: 看護診断のこれから, 第12回せいいい看護学会学術集会, 20210918

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演（口演）

21110033

石田 園光, 廣野 靖夫, 辻 美佐枝, 上原 佳子: 消化器病棟看護師の栄養管理実践力と栄養不良患者に関する相談行動が専門職連携実践力に及ぼす影響について, 第15回日本臨床栄養代謝学会中部支部学術集会, 20210821

21110034

岩崎 光恵, 上原 佳子, 長谷川 智子, 安倍 博, 桑原 勇治: ICU で人工呼吸器を装着している心臓血管外科術後患者へのタクティールケアによるストレス緩和効果の検証, 日本集中治療医学会第5回東海北陸支部学術集会, 20210710

d. 一般講演（ポスター）

e. 一般講演

f. その他

(4) その他の研究会・集会

a. 招待・特別講演等

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演（口演）

d. 一般講演（ポスター）

e. 一般講演

f. その他

(G) 特許等

区分	内容（発明の名称）	発明者又は考案者
----	-----------	----------

(D) その他業績

4. グラント取得

(A) 科研費・研究助成金等

区分	プロジェクト名	研究課題名	代表者名	分担者名	研究期間	金額（配分額）
区分	研究種目	課題名	代表者名	分担者名	研究期間	金額（配分額）
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究 (C)	高齢者の睡眠に対するタクティールケアの効果の検証	北野 華奈恵	長谷川 智子, 安倍 博, 四谷 淳子, 上原 佳子, 礪波 利圭, 出村 佳美	20180401-20220331	¥650,000
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究 (C)	高齢のCOPD患者の誤嚥性肺炎予防に向けた口腔セルフケア教育プログラムの検証	出村 佳美	長谷川 智子, 上原 佳子, 北野 華奈恵, 礪波 利圭	20190401-20230331	¥910,000
文部科学省科学研究費補助金	挑戦的研究 (萌芽)	DNA損傷に関わる年齢依存性発現分子の機能解析—法医学から老化医学への展開	飯田 礼子		20190628-20220331	¥1,950,000
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究 (C)	長期的なタクティールマッサージによるストレス緩和およびQOL向上効果の検証	上原 佳子	長谷川 智子, 北野 華奈恵, 礪波 利圭, 出村 佳美, 安倍 博	20210401-20250331	¥1,170,000
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究 (C)	継続的なタクティールマッサージによる効果の検証	上原 佳子	長谷川 智子, 北野 華奈恵, 礪波 利圭, 出村 佳美, 安倍 博	20180401-20220331	¥0
文部科学省科学研究費補助金	若手研究	2型糖尿病患者の通院中断予防に向けた医療者との関係構築スキル向上プログラムの開発	藤田 結香里		20200401-20230331	¥1,300,000
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究 (C)	慢性疾患患者の意思決定行動を含むセルフマネジメントと効果的看護教育介入方法の構築	長谷川 智子	出村 佳美, 上原 佳子, 北野 華奈恵, 橋本 容子	20200401-20240331	¥1,300,000
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究 (C)	COPD患者の疾病コントロールを支える家族に対する家族支援プログラムの構築	礪波 利圭	長谷川 智子, 上原 佳子, 北野 華奈恵, 出村 佳美	20170401-20220331	¥650,000

区分	機関名	課題名	研究者名	研究期間	契約金額
区分	機関名	課題名	研究者名	研究期間	契約金額

(B) 養学寄附金

受入件数	0
受入金額	¥0

5. その他の研究関連活動

(A) 学会開催等

区分	主催・共催の別	学会名	開催日	開催地
----	---------	-----	-----	-----

(B) 学会の実績

学会の名称	役職	氏名
日本呼吸ケア・リハビリテーション学会	編集委員会委員	長谷川 智子
日本呼吸ケア・リハビリテーション学会	理事	長谷川 智子
日本エンドオブライフケア学会	学会活動推進委員会委員	長谷川 智子
日本看護診断学会	理事	長谷川 智子
日本呼吸ケア・リハビリテーション学会	第32回学術集会プログラム委員会委員	長谷川 智子
日本呼吸ケア・リハビリテーション学会	呼吸ケア指導士認定審議委員会委員	長谷川 智子
日本呼吸ケア・リハビリテーション学会	呼吸ケア指導士認定委員会委員	長谷川 智子
日本エンドオブライフケア学会	編集委員	長谷川 智子
日本呼吸ケア・リハビリテーション学会	呼吸不全緩和ケア検討委員会委員	長谷川 智子
日本がん看護学会	一般会員	長谷川 智子
日本生理心理学会	一般会員	長谷川 智子
日本看護診断学会	査読委員	長谷川 智子
日本エンドオブライフケア学会	理事	長谷川 智子
日本環境感染学会	一般会員	長谷川 智子
日本看護診断学会	理事長	長谷川 智子
日本看護科学学会	代議員	長谷川 智子
日本看護診断学会	第28回日本看護診断学会学術大会 企画委員	長谷川 智子
日本健康心理学会	一般会員	長谷川 智子
日本看護医療学会	一般会員	長谷川 智子
日本呼吸管理学会	一般会員	長谷川 智子
福井呼吸ケア研究会	世話人	長谷川 智子
日本看護科学学会	一般会員	長谷川 智子
日本看護協会	一般会員	長谷川 智子
日本呼吸ケア・リハビリテーション学会	第31回学術集会プログラム委員会委員	長谷川 智子
日本手術看護学会	査読者	長谷川 智子
日本看護科学学会	第41回日本看護科学学会学術集会 一般演題口演 (日本語) 査読委	長谷川 智子
日本呼吸ケア・リハビリテーション学会	代議員	長谷川 智子
日本看護診断学会	評議員	長谷川 智子
日本生理心理学会	一般会員	上原 佳子
日本看護研究学会	一般会員	長谷川 智子
NANDA International	一般会員	長谷川 智子
福井呼吸ケア研究会	事務局長	長谷川 智子
日本法医学会	一般会員	飯田 礼子
日本DNA多型学会	一般会員	飯田 礼子

業績一覧

日本看護診断学会	幹事	上原 佳子
日本看護科学学会	一般会員	上原 佳子
日本呼吸ケア・リハビリテーション学会	代議員	上原 佳子
日本看護学教育学会	一般会員	上原 佳子
日本看護医療学会	一般会員	上原 佳子
福井呼吸ケア研究会	世話人	上原 佳子
日本呼吸ケア・リハビリテーション学会	一般会員	上原 佳子
日本看護診断学会	一般会員	上原 佳子
日本がん看護学会	一般会員	上原 佳子
日本看護研究学会	一般会員	上原 佳子
日本がん看護学会	一般会員	北野 華奈恵
日本看護医療学会	一般会員	北野 華奈恵
日本看護科学学会	一般会員	北野 華奈恵
日本看護管理学会	一般会員	北野 華奈恵
日本看護診断学会	一般会員	北野 華奈恵
日本呼吸ケア・リハビリテーション学会	一般会員	北野 華奈恵
日本看護研究学会	一般会員	北野 華奈恵
日本看護診断学会	幹事	北野 華奈恵
日本エンドオブライフケア学会	一般会員	北野 華奈恵
日本呼吸ケア・リハビリテーション学会	一般会員	礪波 利圭
日本家族看護学会	一般会員	礪波 利圭
日本看護診断学会	一般会員	礪波 利圭
日本看護科学学会	一般会員	礪波 利圭
日本看護技術学会	一般会員	礪波 利圭
日本慢性看護学会	一般会員	礪波 利圭
日本看護医療学会	一般会員	礪波 利圭
日本看護診断学会	一般会員	出村 佳美
日本看護研究学会	一般会員	出村 佳美
日本看護科学学会	一般会員	出村 佳美
日本看護医療学会	一般会員	出村 佳美
日本慢性看護学会	一般会員	出村 佳美
日本呼吸ケア・リハビリテーション学会	一般会員	出村 佳美
日本看護科学学会	一般会員	藤田 結香里
日本糖尿病・教育看護学会	一般会員	藤田 結香里
日本看護研究学会	一般会員	藤田 結香里
看護実践学会	一般会員	藤田 結香里
福井呼吸ケア研究会	世話人	礪波 利圭

(C) 座長

国内学会 (全国レベル)	学会名	氏名
-----------------	-----	----

(D) 学術雑誌等の編集

学術雑誌等の名称	査読・編集	委員長(主査)・委員 の別	氏名	査読編数
看護診断学会誌	査読	委員	長谷川 智子	
日本手術看護学会誌	査読	委員	長谷川 智子	
日本エンドオブライフケア学会誌	編集	委員	長谷川 智子	
第41回日本看護科学学会学術集会講演集	査読	委員	長谷川 智子	
日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌	査読	委員	上原 佳子	1
福井大学医学系研究雑誌	査読	委員	上原 佳子	1
日本糖尿病教育・看護学会誌	査読	委員	藤田 結香里	

(E) その他